

授業概要

本演習は、学生各人が3年次の専門演習で設定した研究テーマに関する文献や資料（史料）の収集とそれらの読み込み作業を通じて卒業論文の骨格を作り上げるとともに、内容の肉付けを進めながら論文を完成させることを目的とする。演習では各自に研究報告を行ってもらい、受講者全員とのディスカッションにより、卒業論文の内容を練り上げていくこととする。

授業計画

第1回	春期の進め方の説明	第16回	秋期の進め方の説明
第2回	研究報告と質疑応答①	第17回	研究報告と質疑応答①
第3回	研究報告と質疑応答②	第18回	研究報告と質疑応答②
第4回	研究報告と質疑応答③	第19回	研究報告と質疑応答③
第5回	研究報告と質疑応答④	第20回	研究報告と質疑応答④
第6回	研究報告と質疑応答⑤	第21回	研究報告と質疑応答⑤
第7回	研究報告と質疑応答⑥	第22回	研究報告と質疑応答⑥
第8回	研究報告と質疑応答⑦	第23回	研究報告と質疑応答⑦
第9回	研究報告と質疑応答⑧	第24回	研究報告と質疑応答⑧
第10回	研究報告と質疑応答⑨	第25回	研究報告と質疑応答⑨
第11回	研究報告と質疑応答⑩	第26回	研究報告と質疑応答⑩
第12回	研究報告と質疑応答⑪	第27回	研究報告と質疑応答⑪
第13回	研究報告と質疑応答⑫	第28回	研究報告と質疑応答⑫
第14回	春期研究報告の全体的な総括	第29回	卒業論文提出前の最終確認①
第15回	今後の論文作成準備について	第30回	卒業論文提出前の最終確認②

到達目標

- ・各自が設定した卒論テーマに関する文献や資料（史料）を収集し、論文作成に活用することができる。
- ・卒業論文で何を解明するのかという問題意識を明確化することができる。
- ・自分なりの答えを、根拠を示しながら論理的に導き出すことができる。

履修上の注意

- (1) 春期と秋期にそれぞれ研究報告を行うことが単位付与の条件となる。
- (2) 就職活動等でやむを得ず欠席する場合には、必ず連絡を入れること。

予習・復習

- (1) 研究報告に際しては、レジュメを準備する。
- (2) 授業の際に自分の報告に対して提起された教員や他の受講生からの意見や議論を参考にしながら、論文の中身を練り直す。

評価方法

授業に対する姿勢（研究報告の内容と質疑応答への参加）50%、卒業論文 50%

テキスト

使用しない。

授業概要

メディア文化を中心とした主題で卒業論文、または卒業研究を作成する。3年次の専門演習で設定した研究を深め、参考文献や資料の収集を収集する。

同時に、卒業論文、または卒業研究をわかりやすく伝えることを学んでいく。パワーポイントを使用し、ゼミの仲間とともにディスカッションをし、主題を深めていく。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	中間発表(1)
第2回	主題を決める	第17回	中間発表(2)
第3回	目次作成(1)	第18回	中間発表(3)
第4回	目次作成(2)	第19回	論文作成(5)
第5回	目次作成(3)	第20回	論文作成(6)
第6回	主題発表(1)	第21回	論文作成(7)
第7回	主題発表(2)	第22回	論文作成(8)
第8回	参考文献と調査方法(1)	第23回	論文作成(9)
第9回	参考文献と調査方法(2)	第24回	論文作成(10)
第10回	論文作成(1)	第25回	論文作成(11)
第11回	論文作成(2)	第26回	論文作成(12)
第12回	論文作成(3)	第27回	論文修正(3)
第13回	論文作成(4)	第28回	研究発表準備(1)
第14回	論文修正(1)	第29回	研究発表準備(2)
第15回	論文修正(2)	第30回	研究発表(1)
		第31回	研究発表(2)

到達目標

- ・各自の主題を基盤とし、論文または研究に関する参考文献と資料を収集することができる。
- ・論文作成を完成することができる。
- ・パワーポイントを使用した発表ができる。

履修上の注意

- ・パワーポイントを使用した研究発表をする。
- ・就職活動等でやむを得ず欠席する場合には、必ず連絡を入れること。

予習・復習

・各自のすすめ具合により、個々で期日を決めていくため、その日に間に合うよう論文作成、発表をすすめていく。

評価方法

研究発表 50%、卒業論文、または卒業研究 50%。

テキスト

使用しない。

授業概要

大学での研究の総括として、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題について考察し、その主題について自分の意見をまとめ、卒業論文を書いていただく。まず、テーマの選び方から、資料収集の仕方、文章の書き方、注、参考文献の書き方に至るまで論文の書き方を指導する。その指導を受けながら、受講生は各自の卒業論文の準備を進めることになるが、適宜、研究経過を報告あるいは発表し、そこで得られたフィードバックを論文の内容に活かし、最終的に論文を完成する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	ゼミ生による中間発表(1)
第2回	卒業論文とは?—レポートとの違いなど	第17回	ゼミ生による中間発表(2)
第3回	テーマの選び方	第18回	今後の論文作成の計画の作成
第4回	論文の主題の決め方	第19回	春学期の論文の書き方の復習
第5回	参考文献の選び方、読み方	第20回	注の書き方：説明
第6回	論文の書き方：スケッチ、アウトラインから執筆、完成まで	第21回	注の書き方：実践
第7回	資料の種類	第22回	卒業論文の題目のつけ方
第8回	資料の収集の仕方	第23回	参考文献の書き方：説明
第9回	ゼミ生によるテーマの発表	第24回	参考文献の書き方：実践
第10回	論文の構成と論旨の展開の仕方	第25回	ゼミ生による経過報告
第11回	引用の仕方	第26回	論文の書き方の指導：実践編
第12回	挿入、強調など注意すべきこと	第27回	要旨の書き方
第13回	基本的な文章の書き方	第28回	ゼミ生による卒業論文発表(1)
第14回	論文における文章の書き方	第29回	ゼミ生による卒業論文発表(2)
第15回	ゼミ生による経過報告、参考文献リストの提出	第30回	総括

*授業の内容、進度は、ゼミ生の卒業論文の準備の進捗度、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

到達目標

自分の力で、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題を選び、その主題について客観的に考察して意見をまとめ、最終的に論文の書き方に従って卒業論文を書き上げることができる。

履修上の注意

卒業論文を完成するために、受け身の姿勢で臨まずに、次に何をすべきかみずから考えて計画的に論文の準備を行うこと。

予習・復習

授業の内容を理解するために、事前に与えられたハンドアウトを読んで、次の授業の全体像をつかんでおくこと。復習としては、授業で学んだことをいかに各自の論文の準備に応用できるかについて考え、実行に移すこと。

評価方法

完成した卒業論文の内容(70%)を主として、その他、卒業論文への取り組み方(10%)、授業での発表(20%)を加えて総合的に判断する。

テキスト

特になし。ハンドアウトを配布する。適宜、参考書を紹介する。

授業概要

このゼミは、卒業論文を完成させることを目的として開講する。専門演習参加者が本ゼミに所属し、三年次に決めたテーマに沿って卒業論文を完成させていくよう指導する。定期的に行われる経過報告の回には必ず参加して、進捗状況を報告してもらう。

卒業論文は、大学生活の総決算である。大学で学んだことをもとに自らの研究を形として見せてほしい。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	ガイダンス
第2回	主題を決める	第17回	論文作成④本論
第3回	目次作成①	第18回	論文作成⑤本論
第4回	目次作成②	第19回	論文作成④本論
第5回	途中経過報告①	第20回	途中経過報告⑤
第6回	目次と主題作成①	第21回	論文修正③
第7回	目次と主題作成②	第22回	論文修正④
第8回	図書館の使い方	第23回	論文作成⑤結論
第9回	論文作成①本論	第24回	論文作成⑥結論
第10回	途中経過報告②	第25回	途中経過報告⑥
第11回	論文作成②本論	第26回	論文修正⑤
第12回	論文作成③本論	第27回	論文修正⑥
第13回	論文修正①	第28回	論文修正⑦
第14回	論文修正②	第29回	完成に向けて（最後の点検）①
第15回	全員の経過報告会③	第30回	完成に向けて（最後の点検）②
		第31回	卒業論文提出

到達目標

卒業論文（卒業研究）を完成させることができる。

履修上の注意

- ・本ゼミを履修できるのは日本古典文学ゼミの学生に限られる。
- ・無断欠席は厳禁とする。
- ・教員との適切な距離感を保った連絡を絶やさないこと。

予習・復習

- ・大学では情報メディアセンターなどに通うこと。
- ・授業時間外の作業が増える。自分で管理して論文執筆の時間をつくること。

評価方法

卒業論文（研究）の作成の過程や受講態度（20%）・卒論の内容（80%）で総合的に評価する。

テキスト

なし。各自の卒業論文（研究）に必要な書籍等については、随時相談する。各人で購入ないし図書館に購入希望を申し込むことを推奨する。

授業概要

日本近現代文学を対象とする卒業論文、あるいは創作としてなされる卒業研究を書く技法を習得し、学生が自身の卒論・卒研を遅滞なく完成することができるように指導する。なお今年度は4年生の数が少ないため、卒業論文等の発表だけでなく、近現代文学を扱った学術的エッセイを合わせて読んでいき、近現代文学研究の近年の潮流、傾向も知るように促す。

授業計画

第1回	ガイダンス：卒業論文・卒業研究とは	第16回	ガイダンス：卒論執筆の注意点
第2回	安藤宏『「私」をつくる』を読む1	第17回	先行論文研究1
第3回	安藤宏『「私」をつくる』を読む2	第18回	先行論文研究2
第4回	安藤宏『「私」をつくる』を読む3	第19回	先行論文研究3
第5回	題目発表1	第20回	構想発表2
第6回	題目発表1	第21回	構想発表2
第7回	安藤宏『「私」をつくる』を読む4	第22回	先行論文研究4
第8回	安藤宏『「私」をつくる』を読む5	第23回	先行論文研究5
第9回	安藤宏『「私」をつくる』を読む6	第24回	先行論文研究6
第10回	構想発表1	第25回	問題点発表2
第11回	構想発表1	第26回	問題点発表2
第12回	安藤宏『「私」をつくる』を読む7	第27回	先行論文研究7
第13回	安藤宏『「私」をつくる』を読む8	第28回	先行論文研究8
第14回	問題点発表1	第29回	問題点発表3
第15回	問題点発表1	第30回	問題点発表3
		第31回	まとめ：卒業論文・卒業研究の提出

到達目標

- ・自身の卒業論文・卒業研究の内容・趣旨についての確に説明できる。
- ・自身の卒業論文・卒業研究の目的を日本近現代文学研究の系譜に位置付けることができる。
- ・自身の卒業論文・卒業研究の意義を明確に把握し、説明できる。

履修上の注意

この授業は近現代文学のゼミナールに所属する学生のみを対象とする授業である。

予習・復習

予習：自分の研究対象だけでなく、他の発表者の研究対象についてもあらかじめ学んでおくこと。
復習：自身の発表に対する教員あるいは他学生のコメントをよく消化し、今後の研究に反映させること。

評価方法

授業内での発表（80%）、授業参加態度（20%）により評価する。

テキスト

- ・教科書名：『「私」をつくる』
- ・著者名：安藤宏
- ・出版社名：岩波書店（岩波新書）
- ・出版年（ISBN）：2015年

授業概要

本授業は、日本の前近代史に関する卒業論文の執筆を行う。3年次の専門演習において各自で設定したテーマに従い、検討を行うとともに適宜進捗状況を報告する。

報告では自分の考えを他者にわかりやすく伝えられるようにする。また自身の研究テーマに止まらず、他の受講生の研究報告に対して意見を述べることで、論点を探る力を伸ばすとともに、自分なりの考えを持てるようになることを目指して指導する。

報告時に他の受講生や教員から得られた意見・質問などを加味し、卒業論文を書き上げる。

授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	進捗報告①	第17回	進捗報告⑤
第3回	進捗報告②	第18回	進捗報告⑥
第4回	卒業論文執筆①	第19回	卒業論文執筆⑩
第5回	卒業論文執筆②	第20回	卒業論文執筆⑪
第6回	卒業論文執筆③	第21回	卒業論文執筆⑫
第7回	卒業論文執筆④	第22回	卒業論文執筆⑬
第8回	卒業論文執筆⑤	第23回	卒業論文執筆⑭
第9回	卒業論文執筆⑥	第24回	進捗報告⑦
第10回	進捗報告③	第25回	進捗報告⑧
第11回	進捗報告④	第26回	卒業論文執筆⑮
第12回	卒業論文執筆⑦	第27回	卒業論文執筆⑯
第13回	卒業論文執筆⑧	第28回	卒業論文発表①
第14回	卒業論文執筆⑨	第29回	卒業論文発表②
第15回		第30回	まとめ②

到達目標

自分なりの意見をしっかり持つことができる。

それを他者にわかりやすく伝える力を持つことができる。

履修上の注意

授業計画はあくまで目安。実際の執筆状況を踏まえ、臨機応変に対応する。

報告時は必ず出席すること。

予習・復習

報告時に他の受講者や教員からもらった意見や指摘を踏まえ、自分の卒業論文に反映する。

評価方法

報告 30%、卒業論文 60%、授業に対する姿勢 10%

テキスト

使用しない。

授業概要

大学での学びの総括として、各自の興味関心から研究テーマを決定し、研究方法を決め、データを収集・分析し、卒業論文（卒業研究）を完成させることを目的として指導する。本授業は、専門演習での論文作成を踏まえ、自身の研究テーマについて深めてもらう。授業では、受講生による調査・研究の成果を発表してもらうのと、個別指導によって卒論の執筆を進めて行く。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文の書式について
第2回	論文の形式について	第17回	実験・調査の準備
第3回	関連文献の発表	第18回	
第4回		第19回	実験・調査の実施
第5回		第20回	
第6回		第21回	データの分析
第7回	研究テーマの発表	第22回	
第8回		第23回	結果・方法の作成
第9回		第24回	
第10回		第25回	考察の作成 1
第11回	研究計画の発表	第26回	問題と目的の作成 1
第12回		第27回	結果・方法の作成 2
第13回		第28回	問題と目的、考察の作成 2
第14回		第29回	要旨の確認
第15回	ゼミ生による中間発表会	第30回	口頭発表

到達目標

心理学的な見方・考え方を働かせながら、テーマを設定し、計画を立案し、データを収集し、分析したうえで、科学論文の書式に則った論文を作成できる。

履修上の注意

授業計画はあくまでも予定である。教員・学生のスケジュールにより変更する可能性がある。

予習・復習

授業の目的上、時間外作業が中心となる。定期的に行う経過報告会で、自分の進捗を発表できるように準備を進めること。

評価方法

卒業論文（80%）を主として、論文要旨（10%）、卒論発表会での口頭発表（10%）を加え、総合的に判断する。

テキスト

特になし。

卒業論文の書式については、日本心理学会 執筆投稿の手引きを参考にすること。

<<https://psych.or.jp/manual/>>

授業概要

本演習は、受講生各自が3年次の専門演習で作成した研究計画書に従い、論題に関連する文献や資料の収集とそれらの読み込み作業を通じて、卒業論文の骨格を作り上げるとともに内容を練り上げながら、学科指定の期日までに論文を完成させ、提出を完了できるように指導する。

本演習では、受講生各自が持ち回りで自身の卒業論文についてのプレゼンを実施する。プレゼンにおいては、自身の卒業論文の途中経過を報告し、教員や受講生とのディスカッションを経て内容を練り上げていくと共に、計画的に卒業論文を完成させるための能力を養う。

授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	研究報告と質疑応答①	第17回	研究報告と質疑応答①
第3回	研究報告と質疑応答②	第18回	研究報告と質疑応答②
第4回	研究報告と質疑応答③	第19回	研究報告と質疑応答③
第5回	研究報告と質疑応答④	第20回	研究報告と質疑応答④
第6回	研究報告と質疑応答⑤	第21回	研究報告と質疑応答⑤
第7回	研究報告と質疑応答⑥	第22回	研究報告と質疑応答⑥
第8回	春期前半の総括	第23回	秋期前半の総括
第9回	研究報告と質疑応答⑦	第24回	研究報告と質疑応答⑦
第10回	研究報告と質疑応答⑧	第25回	研究報告と質疑応答⑧
第11回	研究報告と質疑応答⑨	第26回	研究報告と質疑応答⑨
第12回	研究報告と質疑応答⑩	第27回	研究報告と質疑応答⑩
第13回	研究報告と質疑応答⑪	第28回	研究報告と質疑応答⑪
第14回	研究報告と質疑応答⑫	第29回	研究報告と質疑応答⑫
第15回	春期の総括	第30回	秋期の総括
		第16回	卒業論文の提出

到達目標

- ・エンタテインメント産業やポップカルチャーをメディア文化研究の対象として客観的に考察することができる。
- ・卒業論文の構想立案から完成までの一連の流れを管理、遂行することができる。
- ・各自が設定した論題に関する適切な文献や資料を収集し、論文作成に活用することができる。
- ・自分なりの見解について、客観的な論拠を示しながら、論理的に説明することができる。

履修上の注意

- ・無断欠席をせず、卒業論文執筆とゼミ活動へ積極的に取り組むこと。
- ・ゼミ活動を通じて、ゼミのメンバーや教員と「良い人間関係」を構築できるよう、常に心がけること。
- ・受講者数や進捗状況によって、授業計画を多少変更する可能性があることを留意しておいてください。

予習・復習

- ・発表や報告に際しては、レジュメなどの資料を作成すること。
- ・自らが主体となり、必要事項やスケジュールを管理しながら卒業論文完成に向けて積極的に取り組むこと。
- ・積極的に指導教員と連絡を取り、個人指導を受けること。

評価方法

- ・授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）50%、卒業論文 50%

テキスト

- ・テキストは特に指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。

授業概要

本演習は英語学、もしくは言語学に関する卒業論文を完成させることを目的とし、学生が3年次に決めたテーマに沿って研究を進め、それを論文にしていくために必要な指導を行う。「研究報告」の回では、学生が各自、パワーポイントやハンドアウトを作成して、これまでの研究の成果について発表する。「論文作成」の回では、教員との面談を交えながら、各自、論文作成を進めていく。また、資料の探し方、論文の構成、参考文献の書き方、引用の仕方、注の入れ方など、論文を作成するのに必要な事項についても指導していく。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション、提出④(第2章)
第2回	テーマと概要の発表(1)	第17回	研究報告②(1)
第3回	テーマと概要の発表(2)	第18回	研究報告②(2)
第4回	テーマと概要の発表(3)	第19回	研究報告②(3)
第5回	論文作成(1)	第20回	論文作成(7)
第6回	論文作成(2)、提出①(序論)	第21回	論文作成(8)
第7回	論文作成(3)	第22回	論文作成(9)
第8回	論文作成(4)	第23回	論文作成(10)
第9回	論文作成(5)	第24回	論文作成(11)、提出⑤(第3章)
第10回	論文作成(6)、提出②(序論2)	第25回	研究報告③(1)
第11回	研究報告①(1)	第26回	研究報告③(2)
第12回	研究報告①(2)	第27回	研究報告③(3)
第13回	研究報告①(3)	第28回	研究報告③(4)、提出⑥(要旨、結論)
第14回	研究報告①(4)	第29回	論文作成(12)
第15回	春期まとめ、提出③(第1章)	第30回	卒論提出

到達目標

- ・自分のテーマに関する参考文献を探し、それらを正確に読むことができる。
- ・参考文献や資料に書かれていることを理解し、自分の言葉で伝えることができる。
- ・自分の研究内容についてわかりやすく論理的に文章化できる。
- ・与えられた形式に従った論文を書くことができる。

履修上の注意

- ・英語学の専門演習(担当 船越さやか)を履修していることを前提とする。
- ・授業時間外でも少しずつ論文を書き進めていく。また、授業内の「論文作成」の回では、必要に応じて私物のパソコンを持参する。
- ・就職活動などで研究や論文執筆が進みにくい場合は、その都度相談する。

予習・復習

- ・研究報告ではパワーポイントもしくはハンドアウトを作成する。
- ・授業時間外でも少しずつ論文を書き進め、次回提出までに、コメントを参考にして前回分の内容を加筆・修正しておく。

評価方法

発表を含む卒業論文への取り組み(30%)と卒業論文の内容(70%)から総合的に評価する。

テキスト

テキストは使わない。必要に応じて参考文献を紹介する。

授業概要

本演習では卒業論文の書き方を学ぶ。既に3年次までに特定の言語資料を見定め、分析し、調査データにまとめられているので、それを用いて卒業論文を執筆するのに必要な知識を学び、実際に執筆することを目標とする。授業の形態としては、はじめは日本語学の総復習を行い、各自の関心に従い、文献の講読を行う。その後、各自のテーマに基づき発表を行い、卒業論文を書き進めながら、随時相談し、問題点を修正していくというものになる。また、日本語学の卒業論文にふさわしい構成・体裁についても指導する。最終的に、大学生活での学びの集大成として卒業論文を完成させる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文完成へのチュートリアル
第2回	卒業論文の経過報告①	第17回	スピーチのコミュニケーション
第3回	卒業論文の経過報告②	第18回	比喩とコミュニケーション
第4回	日本語のコミュニケーション	第19回	日本語のレトリック表現とオノマトペ
第5回	言語メッセージと非言語メッセージ	第20回	公共圏のコミュニケーションー禁止を手がかりに
第6回	あいさつのコミュニケーション	第21回	異文化間のコミュニケーション
第7回	対人関係の言葉	第22回	日本語とコミュニケーションー日本語のいま・これから
第8回	言語行為とポライトネス	第23回	卒業論文の研究報告①
第9回	対人関係のマネジメント	第24回	卒業論文の研究報告②
第10回	敬語のコミュニケーション	第25回	卒業論文の研究報告③
第11回	卒業論文の章立て・構成の報告①	第26回	卒業論文の研究報告④
第12回	卒業論文の章立て・構成の報告②	第27回	卒業論文の研究報告⑤
第13回	卒業論文の章立て・構成の報告③	第28回	卒業論文要旨の最終確認
第14回	卒業論文の章立て・構成の報告④	第29回	卒業論文提出の最終確認
第15回	前期のまとめ	第30回	卒業論文の総括

到達目標

- ・書かれた言語資料を集めて分析することができる。
- ・自分自身で日本語学の分野の論文執筆をすることができる。
- ・言語現象から日本語の特性を複数見つけ出して論じることができる

履修上の注意

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、コーパスやデータベースを扱うことがあるので、パソコンの操作に慣れていく必要がある。

予習・復習

授業は、各自が自宅または大学で卒業論文の執筆を自発的にコツコツと進めることを前提としている。各自卒業に間に合うように執筆の努力をされたい。就職活動等でやむを得ず欠席する場合には、必ず連絡を入れること。

評価方法

発表（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

テキスト

- ・教科書名：『日本語とコミュニケーション』
- ・著者名：滝浦真人・大橋理枝
- ・出版社名：放送大学教育振興会
- ・出版年（ISBN）：2015年（978-4595315435）

授業概要

大学での学びの総括として、各自の興味関心から研究テーマを決定し、研究方法を決め、調査し、卒業論文（卒業研究）を完成させることを目的とする。本授業は、専門演習からの引き続きとして、自身の研究テーマについて深めてもらう。授業では、受講生による調査・研究の成果を発表してもらうのと、個別指導によって卒論の執筆を進めて行く。なお、授業は、3年生（専門演習受講者）と合同で行う場合もある。

授業計画

第1回	春期 ガイダンス	第16回	秋期 ガイダンス
第2回	春休み課題の発表①	第17回	卒業論文 経過報告発表会④
第3回	春休み課題の発表②	第18回	卒業論文 経過報告発表会⑤
第4回	春休み課題の発表③	第19回	卒業論文 経過報告発表会⑥
第5回	卒業論文 個別指導①	第20回	卒業論文 個別指導⑤
第6回	卒業論文 個別指導②	第21回	卒業論文 個別指導⑥
第7回	卒業論文 目次作成・発表①	第22回	卒業論文 個別指導⑦
第8回	卒業論文 目次作成・発表②	第23回	卒業論文 「草稿」発表①
第9回	卒業論文 目次作成・発表③	第24回	卒業論文 「草稿」発表②
第10回	卒業論文 個別指導③	第25回	卒業論文 「草稿」発表③
第11回	卒業論文 個別指導④	第26回	論文執筆①
第12回	卒業論文 経過報告発表会①	第27回	論文執筆②
第13回	卒業論文 経過報告発表会②	第28回	論文執筆③
第14回	卒業論文 経過報告発表会③	第29回	論文執筆④
第15回	夏休みに向けた課題の確認	第30回	卒業論文 発表会

到達目標

- ・卒業論文を執筆する作業を通じて、学問的な視点・方法論・記述方法を身に付けることができる。
- ・ゼミ生の発表を通じて、他者の考えに対して客観的に批評することができる。

履修上の注意

- ・春期は、教育実習・教員採用試験の準備などで忙しくなるため、3年の間に卒業論文の作業を進めること。
- ・授業では、卒業論文に関する発表と議論を繰り返すことによって、内容のブラッシュアップを図る。自身の発表には真摯にのぞみ、議論の内容を真摯に検討すること。
- ・卒業論文は、主体的に取り組まなければ完成しないものである、1年間を通じて計画的・主体的に取り組むこと。

予習・復習

予習：自身の研究テーマに関する、先行研究等を勉強する。

復習：授業での教員からの意見、ゼミ生からの意見などを検討し、論文に反映させる。

評価方法

- ・受講態度・授業発表（30%）、卒業論文（70%）

テキスト

- ・必要に応じて資料を配付する。
- ・参考資料・授業中に使用する資料などは、適宜配付する。

授業概要

西洋史を主題とした卒業論文を制作する。受講生が3年生で選んだ時代、地域をもとに、関連する先行研究並びに史料を収集し、読み進める。春期は文献収集と読解を進め、この作業を通じて論文の核となる問いを設定し、目次を考えることで全体の構成を決定するとともに、卒業論文で扱うテーマの歴史研究における文脈づけを考える。

秋期は研究報告を行い、他の受講生とのディスカッションを通じて、テーマに関する考察を深める。また、論文指導を行い、西洋史への考察を通じて現代社会への理解を深め、適切な表現と形式でまとめることを目指して指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	中間発表①
第2回	リサーチ・クエスチョンの設定	第17回	中間発表②
第3回	論文の書き方	第18回	中間発表③
第4回	目次の設定	第19回	中間発表④
第5回	注のつけ方	第20回	論文作成
第6回	史料収集	第21回	論文作成
第7回	先行研究史のまとめ方	第22回	論文作成
第8回	先行研究発表①	第23回	論文作成
第9回	先行研究発表②	第24回	論文作成
第10回	先行研究発表③	第25回	論文作成
第11回	先行研究発表④	第26回	論文作成
第12回	先行研究発表⑤	第27回	論文作成
第13回	先行研究発表⑥	第28回	論文作成
第14回	先行研究発表⑦	第29回	論文作成
第15回	夏休み前の作業確認	第30回	論文作成
		第31回	総括

到達目標

特定の時代、地域に特徴的な制度や社会構造、文化、事象について問題意識を持って考察し、その間に対応した論理的な見解を導き出すことができる。

履修上の注意

西洋史に関する研究を行うため、「西洋史学入門」「西洋史概説」に加えて西洋の文化や歴史に関係する科目を履修していること。

論文執筆に際しては一定の時間を確保し、計画的に進めること。

予習・復習

他の受講生の発表や文献も参考となるため、指定された文献は必ず事前に読んでから授業に参加すること。また、授業中に指摘されたことについては記録を取り、後で参考にすること。

評価方法

卒業論文（70%）、授業中の発表（30%）で評価する。

テキスト

特に指定しない。